

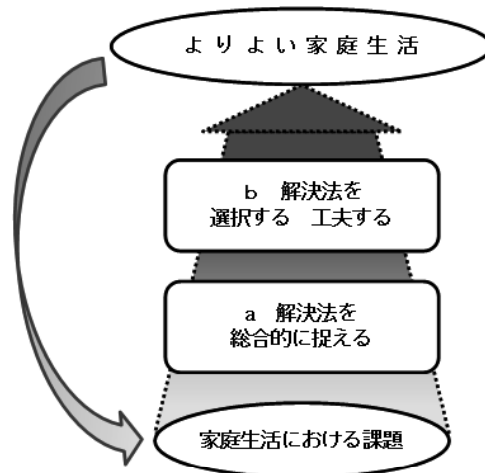
# 家庭科

## 1 育成したい「思考力」

- a 生活事象を多面的に見直し課題を見だし、解決法を総合的に捉える力
- b よりよい生活づくりに向け、自分の家庭生活に適した解決法を選択したり工夫したりする力

家庭科の学習において育成すべき思考力は、「生活を創意工夫する能力」である。そのためには、家庭生活について見直し、身の回りの生活における課題を見つけ、その解決を目指し、家族の一員として自分なりに工夫していく必要がある。

そこで、本校家庭科では、育成したい「思考力」を「生活事象を多面的に見直し、解決法を総合的に捉える力」と「よりよい生活づくりに向け、自分の家庭生活に適した解決法を選択したり工夫したりする力」の二つの段階に分けた。この二つの思考を通して、生活事象を見直し、他者と共生しながらより楽しく豊かな生活をつくっていく力を育成することができる考えた。



【家庭科「思考力」モデル図】

### a 生活事象を多面的に見直し課題を見だし、解決法を総合的に捉える力

まず、自分や家族の家庭生活における一つの生活事象を多面的に見直していくのである。例えば、朝食について、栄養のバランス・色どり・量・時間・経費等のさまざまな観点で見直し、「毎日メニューが決まっている」や「野菜が少ない」等の課題を見いだす。

次に、それらの観点で課題の解決法を多様に探り、その解決法を長所・短所の両面から比較・分析し、総合的に捉えていく。例えば、「野菜が少ない」という課題に対し、栄養のバランスや色どりの観点から「おひたしを加えよう」や「トマトやレタスのサラダを付け足そう」といった一般的な解決法が見えてくる。その際、量や調理時間という観点でも比較・分析することで「おひたしはゆでているから野菜をたくさん食べられるが、調理に時間がかかる」や「サラダはたくさん食べられないけれど、洗ったり切ったりするだけで簡単に調理できて、時間も短くてすむ」とより総合的に捉えていくのである。このような「思考力」aの実践例を、以下に紹介する。

#### 第5学年「冬の快適生活をプロデュース」

##### 【本単元で育成したい「思考力」】

##### 衣服の暖かい着方や、暖かい住まい方を多面的に見直し、解決方法を総合的に見いだす力

衣服・住居のどちらも、外気を遮断し、内側に暖かい空気層を作るとどめることで暖かくなる。本単元では、まず、衣服の枚数や厚さを変えて保温効果と熱伝導の違いを実験で確かめた。衣服の枚数を多くしたり厚くしたりすることは、衣服と体との間に空気層を作り、断熱効果を上げていることに子どもたちは気付いていった。次に、空気層は風によって壊れやすいことを実験で確かめ、空気層を留めるための効果的な方法を考えた。このようにして、衣服の暖かい着方を多面的に見直すための観点として、身につけている衣服の枚数・厚さ・順序・形・開口部等を見だし、「自転車に乗る時は、風を通さないジャンパーを着るといいね。」「ジャンパーの中には、

もこもこした厚手のフリースを着よう。」とさまざまな解決法を総合的に捉えていった。また、住居気候でも同様にカーテンやカーペットの素材や厚さ、戸や窓等の開口部を小さくする工夫により空気層を暖めて逃がさないようにする方法を考えた。「戸を開け放さず、こまめに閉めるほうがよい。」「冬は早めにカーテンを閉めて、冷たい外気が室内に入らないようにしている。」等と生活の中の何気ない行動から解決法を捉えることができた。

このように、暖かく過ごすための着方や住まい方につながるさまざまな観点を見だし、「活動や目的に合わせて枚数や素材を変えながら着方を工夫する」等の解決法を総合的に捉える力が「思考力」aである。



【暖かい着方を見いだす】

### b よりよい生活づくりに向け、自分の家庭生活に適した解決法を選択したり工夫したりする力

たとえ一般的・総合的に解決法を見いだしたとしても、個々の家庭にとっては必ずしも有効とは言えない場合がある。そこで、「思考力」aで見いだした解決法の中から、自分の家庭の状況に照らして、最も適していると思われる解決法を選択したり、よりよいものに工夫したりしていく力を「思考力」bとして位置づけた。

例えば、よりよい朝食を考えていく場合、一般的には、ごはんのみそ汁を基本にして献立を作成すると栄養バランスが整うとされている。しかし、それを必ずしも実生活に活用できない場合がある。そこで、「朝は忙しいので、我が家では手早く準備できるパンを主食にし、卵等のおかずを組み合わせる」「みそ汁は調理に時間がかかるので、副菜は生野菜サラダにする」と、複数ある解決法から自分に実践可能なものを選択したり、「前日から煮干しを水につけておくとすぐにだしが取れ、時間短縮でみそ汁が作れる」と自分なりの工夫を考えたりするのである。このような姿の育成を目指した、「思考力」bの実践例を以下に紹介する。

## 第5学年「かしこい消費者になろうーめざせ！買物の達人ー」

### 【本単元で育成したい「思考力」】

#### よりよい消費生活のために、環境に配慮しながら自分の状況や目的に合わせて物を選ぶ力

本単元では、参観日に、おうちの方にご飯のみそ汁を振る舞う際のお茶選びを題材に、買物の学習を展開した。子どもたちは、共通に経験している学習発表会（附小フェスタ）でのうどん作りの反省にあった「お茶が欲しかった」や「ゴミを減らしたい」という声を基に、4種類のお茶（①2Lのペットボトルと紙コップ、②500mLのペットボトル人数分、③250mLの紙パック人数分、④湯を沸かして自分で入れる）から選択した。自分が選ぶお茶、選ばないお茶について話し合う中で、「④は心の込もった温かいお茶を入れられ、値段も安いよ。」「でも、ご飯のみそ汁を作るのでコンロは2つともふさがっているし、お湯を沸かす時間がかかる。」や「①は手軽だけれど紙コップがごみになる。」「紙コップをやめて湯飲みを使えばいいよ。」等、量・値段・利便性・ごみの量等の視点から4種類のお茶を比較していった。

その後、「学校に毎日持ってくるならば」と状況を変えて考える場を設定すると、選択するお茶が変わり、その理由を「特別な日と毎日では変わる」「お客様用と自分用では違ってくる」等と話し合った。このように、相手や環境への配慮をしながら、自分の状況や目的に応じて選ぶ力が「思考力」bである。



【選んだ理由を語り合う】